

「伝鎌倉古道」の保全是今である

小島資料館館長

小島 政孝

町田市小野路町は、武蔵国国府の府中から、相模国に接する中間にある。現在は、小野路の別所に幅一八メートルの鎌倉街道が抜けている。これに対して、古い鎌倉街道を鎌倉古道という。小野路の宿は、鎌倉時代には存在していたと考えられる。その理由として能の演目で、現在は廃能になっている「横山」に小野路の地名が登場する。

「横山」は、室町時代に世阿弥によって作られたといわれている。登場人物の主役横山十郎春尚は、武州小野地（路）の庄を所領した鎌倉武士とされている。能に小野路の地名が出ることは、小野路の里は、当時広く人に知られた場所であったといえる。従って、鎌倉古道は小野路宿を通っていたと考えられる。小野路宿の道に添って小野路川が流れていて、大雨が降ると氾濫して通行が不能になった。また、水が引いたあとはぬかっつて沼地のようになり、足場が悪かったと思われる。このため、小野路宿を迂回した宿の裏山に並行した道がもう一本ある。この裏山の尾根道は、自然発生的にできた道で、宿通りより古い道と考えられる。尾根道なので水はけがよく大雨が降っても歩くことができる。

この尾根道は、町田市域では、小野路の妙桜寺前から、菘口バラ園の入り口を通り、関屋の切り通しから宿の裏山を抜け、小野路保育園の脇を下る。この場所から、伊勢湾台風の時に崖が崩れ、一六枚くらい板碑が発見された。小野路保育園脇から、新屋敷の「かまくら橋」を渡り、野津田公園を抜け、華厳院坂を下り、芝溝街道、鶴見川を横切って右折する。そのあと、石坂家の裏を登って、鎌倉井戸（七国山）に出る。ここから下って今井谷戸に出て、現在の鎌倉街道を通り、本町田の菅原神社（本殿の裏の道）に出る。小野路、野津田、山崎、本町田まで、約六キロメートルにわたって鎌倉古道が現在も残っている。鎌倉幕府が滅亡した元弘三年（一一三三）から七十年たった応永十年に小野神社に宮鐘が寄進された。鐘銘によると、旅人の交通祈願のために、朝夕に鐘を撞いたことが記されている。鎌倉幕府はなくても、小野路の宿が機能していたことがわかる。この宮鐘は、両上杉の戦いで文明年間に持ち去られたと伝承されている。現在は、神奈川県逗子市沼間の海宝院にある。小野神社には、その複製が掛けられている。

町田市が市制を施行した昭和三三年の人口は、約六万人であった。その後、衛星都市の住宅地建設のために、急激な宅地造成が行われ、現在の人口は、約四三万人となり七・一六倍となった。この宅地造成から逃れ、現在町田市にお

いて、約六キロにわたって、鎌倉古道が残っており、鎌倉古道の尾根道は、約五キロにわたってあまり手が入らずに残っていることは、奇跡に近い。

国分寺市は、平成四年二月に重要史跡として、「伝鎌倉街道」として一二〇メートルを文化財に登録している。

私は、鎌倉古道を末永く保存するためには、古道とその周辺をまず文化財に指定し、将来は、東京都か町田市が歴史環境保全区域として、環境整備をしていくことが望ましいと思う。鎌倉古道の小野路町の一部、野津田公園の部分、華厳院坂の一部、七国山緑地保全地域は、町田市の所有地で、外の地域は民地である。民地は、相続などで第三者に売却されるおそれがある。バブルの前は、土地区画整理事業が多く施行された。しかし、将来は人口が減少する。先日の新聞には、西暦二〇五〇年には日本の人口が一億人を切るとの予想が発表された。今後の開発が低迷し、さらに拍車をかける現在、「鎌倉古道を保存する」時がきたと思う

(町田市文化財保護審議会会長)